

●グリーンインフラの取り組み 『地域と連携した自然景観の保全と流域の歴史と文化を継承する川づくり』

- 令和元年東日本台風では、県内各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、高城川水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 県、市町が連携し、以下の取組を推進していくことで、50年に一回程度の規模の降雨を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



- 森林整備(県、森林整備センター)
- 治山対策(県、森林整備センター)
- 水田貯留、ため池改修(県)
- マイタイムライン普及促進(市町)
- 洪水ハザードマップの作成(市町)
- 危機管理型水位計・監視カメラの設置(県)

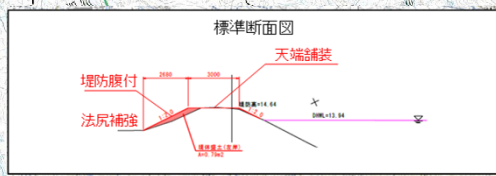
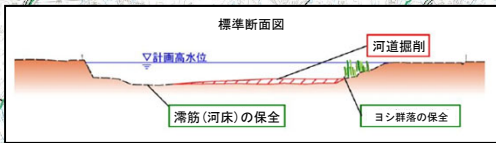
- 凡例
- 堤防整備
 - 河道掘削
 - 浸水範囲(H27関東・東北豪雨)

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
河川区域での対策
 - 鶴田川：堤防補強
 - 高城川：河道掘削
- ※ 支障木伐採、堆積土砂撤去：鶴田川、新堀川
- 集水域での対策
 - ため池改修 等
 - 雨水貯留施設の整備促進
 - 水田貯留(田んぼダム)
 - 森林整備、治山対策 等

- グリーンインフラの取組
【全域での取組】
 - 堤防沿いの自然景観の保全
 - 歴史的土木構造物の維持管理
 - 治水対策における多自然川づくり
 - 生物の多様な生育環境の保全

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
氾濫域での対策
 - 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
 - 危機管理型水位計・簡易監視カメラ等の設置
 - 洪水ハザードマップの作成・周知
 - 災害リスクの現地表示箇所の促進
 - マイタイムラインの普及促進
 - 防災教育や避難訓練等の実施
 - 水災害リスク情報空白地帯の解消

- 被害対象を減少させるための対策
氾濫域での対策
 - 土地利用に関する計画の見直し



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

- 高城川水系では、各河川の上下流・支川の流域における地域特性を踏まえ、県・市町等が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】高城川、鶴田川において堤防補強、河道掘削などを実施し、治水安全度の向上を図る。
 - 【中長期】流域河川の河道状況を把握し、堆積土砂撤去・支障木伐採などを計画的に実施する。
- あわせて、流域市町が進めるまちづくりとの調整を図りつつ、安全なまちづくりや内水被害軽減対策（雨水浸透貯留施設の新設等）や市街化の進展に伴う雨水流出量の増大を抑制する雨水貯留浸透施設整備の推進などの流域における対策、ハザードマップや河川水位等の情報発信などソフト対策を実施。
- 吉田川流域と併せて特定都市河川を指定し、流域治水対策の更なる推進を図る。

| 区分 | 対策内容 | 実施主体 | 工期 | | |
|---------------------|-----------------------------|-----------------|---------------------|--------------|-----|
| | | | 短期 | 中期 | 中長期 |
| 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 | 河道掘削 | 宮城県 | [Red arrow] | | |
| | 堆積土砂撤去・支障木伐採 | 宮城県 | [Red arrow] | 河道内の状況より順次実施 | |
| | 雨水貯留施設の整備 ため池改修、水田貯留 | 流域市町 | [Red arrow] | | |
| | 森林整備・治山対策等 | 宮城県 森林整備センター | [Red arrow] | | |
| 被害対象を減少させるための対策 | 適正な土地利用の規制 | 流域市町 | [Yellow arrow] | | |
| 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 | ソフト対策のための整備 | 宮城県 | [Green arrow] | | |
| | 避難体制等の強化 洪水ハザードマップの作成・周知 | 流域市町 | [Green arrow] | | |
| グリーンインフラの取組み | 自然景観の保全（桜並木） | 流域市町 | [Light green arrow] | | |
| | 歴史的土木建造物の保全 | 宮城県 | [Light green arrow] | | |
| | 森林整備・治水対策等 | 宮城県 森林整備センター | [Light green arrow] | | |